



(様式第9)

医板病公発第 84号
平成25年10月2日

関東信越厚生局長 殿

東京都板橋区大谷口上町30
日本大学医学部附属板橋
病院長 丹正勝久

日本大学医学部附属板橋病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成24年度の業務に関して報告します。

記

1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照（様式第10）

2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照（様式第11）

3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	102.7人
--------	--------

（注） 前年度の研修医の実数を記入すること。

4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照（様式第12）

5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方式及び閲覧の実績
→ 別紙参照（様式第13）

6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照（様式第13）

7 医師，歯科医師，薬剤師，看護師，及び准看護師，管理栄養士その他の従業員の員数

職 種	常勤	非常勤	合計	職 種	員数	職 種	員数
医 師	508人	87.1人	595.1人	看護業務補助者	43人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	8人	3.0人	11.0人	理学療法士	12人	臨床検査 衛生検査	臨床検査技師 84人
薬剤師	54人	0.2人	54.2人	作業療法士	1人		衛生検査技師 0人
保健師	75人	0人	75人	視能訓練士	6人		その他 0人
助産師	40人	0人	40人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	1人
看護師	869人	11.6人	880.6人	臨床工学技士	25人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	6人	0人	6人	栄養士	2人	その他の技術者	15人
歯科衛生士	2人	1.0人	3.0人	歯科技工士	1人	事務職員	91人
管理栄養士	12人	0人	12人	診療放射線技師	73人	その他の職員	0人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には，管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には，非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て，小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には，それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者，外来患者及び調剤の数

歯科，矯正歯科及び小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	807.5人	5.0人	812.5人
1日当たり平均外来患者数	2236.1人	62.6人	2298.7人
1日当たり平均調剤数	外来分 32.0剤，入院分 872.6剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には，歯科，矯正歯科，小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を，「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は，年間の各科別の入院患者延数（毎日の24時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は，年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は，年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱い患者数

先進医療の種類	取扱い患者数
胎児心エコー検査	64人
腹腔鏡下腎盂形成術	6人
腹腔鏡下腎部分切除術	6人
メッシュを用いた骨盤臓器脱手術	58人
腹腔鏡下小切開前立腺全摘出術	17人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、全年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱い患者数

先進医療の種類	取扱い患者数
胎児心エコー検査	64人
乳癌センチネルリンパ節生検	146人
前眼部三次元画像解析	20人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、全年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下にて腎盂尿管の離断と狭窄部の開放と腎盂尿管の縫合を行う。			
医療技術名	腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下にて、腎腫瘍の切除を行い腎実質の縫合を行う。			
医療技術名	メッシュを行いた骨盤臓器脱の手術	取扱患者数	58 人
当該医療技術の概要 経腔的なアプローチの骨盤臓器脱に対するメッシュによる骨盤症再建を行う。			
医療技術名	腹腔鏡下小切開前立腺全摘除術	取扱患者数	17 人
当該医療技術の概要 腹腔鏡の補助下に通常の皮膚切開よりも小さな創より前立腺を摘出する。			
医療技術名	早産児における出生時胎盤血自己血輸血	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要 早産児における胎盤血自己血輸血による循環状態の安定化と輸血回避			
医療技術名	広範囲重症熱傷症例に対する時価培養表皮移植	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要 自己の小皮膚より作成した自家培養表皮を用いて熱傷創の皮膚再建を行う治療			
医療技術名	自家脂肪注入による乳房再建術	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要 腹部や大腿より吸引採取した自家脂肪を注入して行う乳房再建術			
医療技術名	内視鏡下経上顎洞バルーン法による眼窩骨骨折の低侵襲治療	取扱患者数	15 人
当該医療技術の概要 眼窩骨骨折に対して顔面に皮膚切開を行わず、骨移植も行わないで低侵襲に治療を行う方法			
医療技術名	定位(体幹部)照射	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要 体幹部の限局した小腫瘍に線量を集中させる技術、当院では主に肺癌に対して行っているJCOG放射線治療グループのJCO40403という臨床試験が終了しており、これに基づいて治療を行っている。			
医療技術名	定位(脳)照射	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 脳腫瘍に線量を集中させる技術で、ナイフやサイバーナイフが広く知られているが当病院はライナックで行っている。			
医療技術名	HDR-RALS	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要 highdose rate remote after loading systemの略で遠隔操作式後充填照射装置を示す。当院では主に子宮頸癌に対し行っている子宮内腔、腔内に線源を挿入し治療を行う。			
医療技術名	I-125 Brachytherapy	取扱患者数	24 人
当該医療技術の概要 前立腺内に小線源を配置する治療法。当院では術前・術直プランを作成し挿入している。(治療に用いるソフトの関係で術中プランは難しい)			
医療技術名	修正型電気けいれん療法	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要 薬物療法に反応しない難治性うつ病、薬物療法における副作用の為に外来薬物療法が困難な患者、昏迷状態を呈した緊張型統合失調症患者に対しては電気けいれん療法が最も有効な治療手段になる。我々が行っている修正電気けいれん療法は、確実なけいれん誘発と安全かつ速やかな回復を目指し、手術室において、全身管理の下で実施している。頭記のような治療困難に関して地域の病院からの依頼も多い。			

医療技術名	肝尾状葉切除術	取扱患者数	8 人
当該医療技術の概要			
尾状葉に存在する原発性肝癌,転移性肝癌に対する肝切除術			
医療技術名	膵頭十二指腸切除術	取扱患者数	21 人
当該医療技術の概要			
膵臓癌及び胆管癌に対する手術手技			
医療技術名	肝尾状葉合併切除術	取扱患者数	7 人
当該医療技術の概要			
原発性肝癌,転移性肺癌に対する尾状葉を含めた肝切除術			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	5人	・膿疱性乾癬	人
・多発性硬化症	人	・広範脊柱管狭窄症	人
・重症筋無力症	人	・原発性胆汁性肝硬変	4人
・全身性エリテマトーデス	14人	・重症急性膵炎	2人
・スモン	人	・特発性大腿骨頭壊死症	人
・再生不良性貧血	5人	・混合性結合組織病	2人
・サルコイドーシス	33人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	人	・特発性間質性肺炎	91人
・強皮症，皮膚筋炎及び多発性筋炎	13人	・網膜色素変性症	人
・特発性血小板減少性紫斑病	2人	・ブリオン病	人
・結節性動脈周囲炎	15人	・肺動脈性肺高血圧症	3人
・潰瘍性大腸炎	5人	・神経線維腫症	人
・大動脈炎症候群	2人	・亜急性硬化性全脳炎	人
・ビュルガー病	32人	・バッド・キアリ (Budd-Chiari)症候群	人
・天疱瘡	35人	・慢性血栓性肺高血圧症	1人
・脊髄小脳変性症	人	・ライソゾーム病 (ファブリー (Fabry) 病) 含む	人
・クローン病	2人	・副腎白質ジストロフィー	人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	3人	・家族性高コレステロール血症 (ホモ接合体)	人
・悪性関節リウマチ	1人	・脊髄性筋萎縮症	人
・パーキンソン病関連疾患 (進行性核上性麻痺，大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	人	・球脊髄性筋萎縮症	人
・アミロイドーシス	人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	人
・後縦靭帯骨化症	人	・肥大型心筋症	人
・ハンチントン病	人	・拘束型心筋症	人
・モヤモヤ病 (ウィリス動脈輪閉塞症)	人	・ミトコンドリア病	人
・ウェゲナー肉芽腫症	1人	・リンパ脈管筋腫症 (LAM)	人
・特発性拡張型 (うっ血型) 心筋症	2人	・重症多形滲出性朱斑 (急性期)	人
・多系統萎縮症 (線条体黒質変性症，オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	人	・黄色靭帯骨化症	人
・表皮水疱症 (接合部型及び栄養障害型)	人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症，ゴナドトロピン分泌異常症，ADH分泌異常症，下垂体分TSH分泌異常症，クッシング病，先端巨大症，下垂体機能低下症)	39人

(注) 「取扱い患者数」欄には，前年度の年間実患者数を記入すること

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・乳がんセンチネルリンパ節	・
・悪性黒色腫センチネルリンパ節	・
・胎児心エコー法	・
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1.臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2.臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年 9回 開催
剖検の状況	剖検症例数 85例/剖検率 17.9%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助又は委託元
特発性慢性蕁麻疹の病態解明と新規診断法確率	照井 正	皮膚科	120万円	補委 厚生労働省科学研究費
遺伝子の異常メチル化による悪性黒色腫の早期鑑別診断	篠島 由一	皮膚科	50万円	補委 厚生労働省科学研究費
稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	岩月 啓氏	皮膚科	200万円	補委 文部科学省
冠動脈粥腫破綻機序を解明するための三次元破壊力学手法による独自の解析と治療法開発	廣高史	循環器内科	65万円	補委 科学研究費
低分子量GタンパクRac1の血管障害後の新生内膜形成における役割	李 予昕	循環器内科	182万円	補委 科学研究費
周産期脳障害に対する自己臍帯血幹細胞による脳機能再生の治療戦略	細野 茂春	新生児病科	80万円	補委 文部科学省科学研究
周産期医療の質と安全の向上のための 研究	細野 茂春	新生児病科	100万円	補委 厚生労働省
脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた凍結同種皮膚移植と自家培養表皮移植の検討	仲沢弘明	形成外科	507万円	補委 基盤研究◎
脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた血流不全組織救済法の検討	櫻村勉	形成外科	299万円	補委 挑戦的萌芽研究
Th17細胞系蛋白質が前眼部慢性炎症・感染において課す役割に関わる研究	山田 愛	眼科	108万円	補委 科学研究費・若手研究(B)
動的光散乱法による非侵襲的前房内組成定量装置の開発	忍田太紀	眼科	117万円	補委 科学研究費・若手研究(B)
角膜におけるIL-6トランスシグナリングの役割と病態との関連について	崎元 暢	眼科	117万円	補委 科学研究費・若手研究(B)
肺癌におけるGLUT発現の臨床的意義	西井 竜彦	呼吸器外科	100万円	補委 日本大学医学部創立50周年記念研究奨励金
自動縫合器による気管支断端処理の安全性について	石本 真一郎	呼吸器外科	18万円	補委 日本大学医学部荻原研究費
PIポリアミドによるMYC下流遺伝子の発現抑制と抗腫瘍効果の検討	相馬正義	総合科(内科)	156万円	補委 学術振興会科研費
ゲノム化学に基づく先進医療開発研究拠点	相馬正義	総合科(内科)	1,800万円	補委 文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
ナノ物質を基盤とする光・量子技術の極限追求	相馬正義	総合科(内科)	1,537万円	補委 学術研究戦略プロジェクト(N, 研究プロ)
携帯型心電計を用いた疫学的・医学的調査と遠隔医療の推進	笠巻祐二	総合科(内科)	1,500万円	補委 平成22~26年度日本心臓財団研究助成金
Holter心電計を用いた体表微小電位による心臓不整脈突然死リスク評価に関する研究	橋本賢一	総合科(内科)	23万円	補委 日本大学医学部
うつ病と睡眠問題の疫学的関連性及び睡眠指導によるうつ病予防法	内山真	精神神経科	80万円	補委 文部科学省
統合失調症における家系を用いたゲノムワイド相関研究のメタ解析	高橋栄	精神神経科	80万円	補委 文部科学省
がん患者における睡眠の問題とQOLの関連についての実証的研究	金野倫子	精神神経科	45万円	補委 厚生労働省
グルカゴン分泌制御機構とその糖尿病薬による修飾メカニズムの解明	石原 寿光	糖尿病代謝内科	140万円	補委 科学研究費補助金
初発肝細胞癌に対する切除術とラジオ焼灼療法の有効性に関する他病院共同研究	高山 忠利	消化器外科	15万円	補委 厚生労働省
画像解析による肝細胞癌形態分析システムの樹立	中山 壽之	消化器外科	800万円	補委 日本大学学術研究助成金
切除不能大腸がんに対する抗癌剤感受性予断遺伝子による個別化医療の実践	緑川 泰	消化器外科	400万円	補委 科学研究費補助金 基盤(C)
心肺停止蘇生後に対する体性感覚誘発電位を用いた脳低温療法の適応に関する研究	守谷 俊	救命救急センター	50万円	補委 科学研究費補助金

救急車プローベデータに基づく広域救急活動におけるプレホスピタルサポートシステムの検討	守谷 俊	救命救急センター	150万円	補委	公益財団法人三井住友海上福祉財団
心肺停止蘇生中での肺冷却による頭部冷却法の開発	櫻井 淳	救命救急センター	65万円	補委	科学研究費補助金

(注) 1 国, 地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け, 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち, 高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は, 1つの研究について研究者が複数いる場合には, 主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は, 補助の場合は「補」に, 委託の場合は「委」に, ○印をつけた上で, 補助元又は委託元を記入すること。

計 29件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
静脈学	急性期深部静脈血栓症に対するカテーテル線溶療法～静脈機能と長期成績の検討～	服部努	血管外科
血管外科	術中SPPを指標とした重症虚血肢血行再建の1例	河内秀臣	血管外科
血管外科	【Axillo-femoral bypassの適応と遠隔成績】Over view	前田英明	血管外科
血管外科	【Axillo-femoral bypassの適応と遠隔成績】非解剖学的バイパス術例の予後と遠隔開存率について	前田英明	血管外科
日大医学雑誌	日大外科の手術力(第5報)-2011年外科学系手術統計-	服部努	血管外科
手術術式の完全解説(診療報酬点数表)2012-13年版	第8章 心・脈管 II 動脈	前田英明	血管外科
INTERNATIONAL ANGIOLOGY	Early and late outcomes of inflammatory abdominal aortic aneurysms: comparison with the outcomes after open surgical and endovascular aneurysm repair in literature reviews	Maeda M	血管外科
癌と化学療法	乳腺薬状腫瘍に対する内視鏡補助手術の有用性について	櫻井健一	乳腺内分泌外科
癌と化学療法	S-1+Letrozole投与が局所に効果的であった進行乳癌の1例	榎本克久	乳腺内分泌外科
日本臨床皮膚科医会雑誌 2012; 29(5): 680-682	エキスパートに学ぶ難治性皮膚疾患の ベスト治療 掌蹠膿疱症とSAPHO症候群 病態と治療の進歩	照井 正	皮膚科
Derma.196; 17-21	アトピー性乾皮症	照井 正	皮膚科
Derma.190; 137-41	掌蹠膿疱症の治療戦略	照井 正	皮膚科
臨床皮膚科2013; 67(3): 214-218.	急性増悪した関節症性乾癬にインフリキシマブ投与が著効した1例	高柳たかね	皮膚科
眼科2013; 54(12): 1931-4.	より良い診療を目指して 他診療科との連携 顔面の皮膚疾患 (酒さ、水痘・帯状疱疹)	篠島由一	皮膚科
眼科2013; 54(12): 1791-97.	より良い診療を目指して 他診療科との連携 アトピー性皮膚炎	光谷純郁	皮膚科
Visual Dermatology 2012; 11(10) 1084-1085.	膿疱性骨関節炎、胸鎖関節炎の治療 (case08) 膿疱性骨関節炎(PAO) シクロスポリン	葉山惟大	皮膚科
Visual Dermatology 2012; 11(10): 1022-1023.	【掌蹠膿疱症の治療-あの手この手】(Part1)臨床 (topics 01) ダーモスコピー所見	藤澤大輔	皮膚科
臨床皮膚科2013; 66(4): 362-366.	臨床像からライム病が強く疑われた1例	大竹映香	皮膚科
臨床皮膚科2013; 66(4): 362-367.	サリドマイド誘導体(レナリドミド) による薬疹が考えられた1例	大竹映香	皮膚科
Europace	Diagnosis of coronary spastic angina by implantable loop recorder.	Toshiko Nakai	循環器内科
Journal of Arrhythmia	Risk of defibrillation threshold testing in severe heart failure patient: A case of cardiac resynchronization therapy (CRT-D) with acute myocardial infarction.	Toshiko Nakai	循環器内科
Journal of Cardiac Failure	The worst symptom as defined by patients during heart failure hospitalization: implications for response to therapy.	Mahoto Kato	循環器内科
Diagnosis and treatment	Intensive therapy and total management to avoid readmission for acute decompensated heart failure.	Mahoto Kato	循環器内科
Respiration and circulation.	The jugular venous pressure and pulse contour for management of heart failure.	Mahoto Kato	循環器内科
J Interv Card Electrophysiol	Potential anatomic substrate of peri-atrioventricular nodal atrial tachycardia ablated from the noncoronary sinus of Valsalv	Hiroaki Mano	循環器内科

American Journal of Cardiology	Effect of Embolic Particles During Coronary Interventional Procedures on Regional Wall Motion in Patients With Stable Angina Pectoris	Yoshiharu Higuchi	循環器内科
J Interv Card Electrophysiol	Characteristics and distribution of complex fractionated atrial electrograms and the dominant frequency during atrial fibrillation: Relationship to the response and outcome of circumferential pulmonary vein isolation.	Yasuo Okumura	循環器内科
J Interv Card Electrophysiol	Characteristics and distribution of complex fractionated atrial electrograms and the dominant frequency during atrial fibrillation: relationship to the response and outcome of circumferential pulmonary vein isolation.	Yasuo Okumura	循環器内科
J Am Coll Cardiol	Dynamicity of the J-wave in idiopathic ventricular fibrillation with a special reference to pause-dependent augmentation of the J-wave.	Yoshifusa Aizawa	循環器内科
J Interv Card Electrophysiol	Effects of Inter-electrode Spacing on the Complex Fractionated Electrogram and high Dominant Frequency Detection.	Koichi Nagashima	循環器内科
Circ Arrhythm Electrophysiol	Does Location of Epicardial Adipose Tissue Correspond to Endocardial High Dominant Frequency or Complex Fractionated Atrial Electrogram Sites During Atrial Fibrillation?	Koichi Nagashima	循環器内科
Int J Cardiol	A novel 5' splice site mutation of SCN5A associated with Brugada syndrome resulting in multiple cryptic transcripts.	Toshio Shimada	循環器内科
日大医学雑誌	【災害と医療】災害と循環器疾患	國本 聡	循環器内科
Journal of Arrhythmia	Atrial tachycardia in a patient with arrhythmogenic right ventricular cardiomyopathy/dysplasia	Hiroaki Mano	循環器内科
Journal of Arrhythmia	A case of typical atrial flutter causing unexpected advanced atrioventricular block despite lateral cavotricuspid isthmus ablation	Hiroaki Mano	循環器内科
Medicine and drug journal	Hypernatremia during intensive therapy by using tolvaptan, selective V2 receptor antagonist for patient with congestive heart failure.	Mahoto Kato	循環器内科
Current opinion and review for the next stage (CORE) journal	Intravenous inotropic agents for management of patients with acute heart failure.	Mahoto Kato	循環器内科
Medicina	Diagnosis and evaluation of acute decompensated heart failure.	Mahoto Kato	循環器内科
Medicina	Catecholamines	Mahoto Kato	循環器内科
Diagnosis and treatment	Intensive therapy and total management to avoid readmission for acute decompensated heart failure.	Mahoto Kato	循環器内科
Medicina	Catecholamines and phosphodiesterase III inhibitors	Mahoto Kato	循環器内科
Depression journal	Epidemiology and etiology of depression complicated with chronic heart failure.	Mahoto Kato	循環器内科
Circulation journal	Medications for advanced heart failure patients with recurrent admissions; management of low output syndrome and decreasing medical cost.	Mahoto Kato	循環器内科
Circulation journal	Epicardial Ablation with Irrigated Electrodes: Effect of Bipolar vs. Unipolar Ablation on Lesion Formation.	Koichi Nagashima	循環器内科
Circulation journal	Epicardial ablation with irrigated electrodes: -Effect of bipolar vs. unipolar ablation on lesion formation-	Koichi Nagashima	循環器内科
International Heart Journal	A novel technique for improved lesions in the coronary sinus.	Kimie Ohkubo	循環器内科
日本心臓病学会誌	日本人の冠動脈粥状硬化の病理形態像 画像解析のための基礎解析	春田 裕典	循環器内科
Journal of Cardiology	Serial change and its determinants of residual plaque characteristics under sirolimus-eluting stent: A coronary angiographic study.	Kanai Takashi	循環器内科
日大医学雑誌	植え込み型ループ心電計にて心房粗動を診断した症例	Hiroaki Mano	循環器内科

Journal of Cardiology	Three stars of the constellation of color intravascular ultrasound in the space of tissue characterization of coronary plaque.	Hiro Takafumi	循環器内科
Journal of Cardiology	Risk stratification of cardiovascular events in patients at all stages of chronic kidney disease using myocardial perfusion SPECT.	Yoda Shunichi	循環器内科
心臓 心電図	左室緻密化障害に合併した房室結節回帰性頻拍の1例 植込み型ループ心電計にて心房粗動を診断した症例.	永嶋孝一 真野博明	循環器内科 循環器内科
Int Heart J	A novel technique for improved lesions in the coronary sinus - comparison of bipolar and unipolar ablation -	Kimie Ohkubo	循環器内科
Journal of Arrhythmia	Prevalence and significance of the early repolarization pattern in inferolateral leads in patients with Brugada syndrome: A single-center study.	Kimie Ohkubo	循環器内科
In Heart J	Pharmacologic atrial defibrillation by drug delivery into the temporarily occluded coronary sinus - a canine study -.	Ichiro Watanabe	循環器内科
In Heart J	Effects of antianginal drug trapidil on atrioventricular conduction disturbances during acute myocardial ischemia.	Ichiro Watanabe	循環器内科
日大医学雑誌	心筋梗塞後心不全に対して外来心リハが有用であった高齢者の1症例	氷見 智子	循環器内科
周産期医学 小児科診療	臍帯血シルケン [®] 臍帯血シルケン [®]	細野 茂春 細野 茂春	新生児病科 新生児病科
Int J Cancer, 130: 1021-1028, 2012	Oct1 regulates cell growth of LNCaP cells and is a prognostic factor for prostate cancer	Obinata Daisuke	泌尿器科
Int J Cancer, 130:2240-8, 2012.	ARFGAP3, an androgen target gene, promotes prostate cancer cell proliferation and migration.	Obinata Daisuke	泌尿器科
Urol Int,89:71-77,2012.7.	Intravesical Recurrence after Surgical Management of Urothelial Carcinoma of the Upper Urinary Tract	Hirano Daisaku	泌尿器科
J Cardiovasc Pharmacol	International normalized ratio decreases after hemodialysis treatment in patients treated with warfarin	阿部雅紀 他	腎臓高血圧内分 泌内科
Expert Opin Pharmacother	The dipeptidyl peptidase-4 inhibitor alogliptin improves glycemic control in type 2 diabetic patients undergoing hemodialysis	藤井由紀 他	腎臓高血圧内分 泌内科
Contrib Nephrol	Implementation of a cooperative program for peritoneal dialysis	岡田一義 他	腎臓高血圧内分 泌内科
Expert Opin Pharmacother	Clinical effectiveness and safety evaluation of long-term pioglitazone treatment for erythropoietin responsiveness and insulin resistance in type 2 diabetic patients on hemodialysis	阿部雅紀 他	腎臓高血圧内分 泌内科
Heart Vessels	Efficacy analysis of the renoprotective effects of aliskiren in hypertensive patients with chronic kidney disease	阿部雅紀 他	腎臓高血圧内分 泌内科
Nutrients	Mineral metabolic abnormalities and mortality in dialysis patients	阿部雅紀 他	腎臓高血圧内分 泌内科
Heart Vessels	L/N-type calcium channel blocker cilnidipine reduces plasma aldosterone, albuminuria, and urinary liver-type fatty acid binding protein in patients with chronic kidney disease	阿部雅紀 他	腎臓高血圧内分 泌内科
Hypertens Res	Additive renoprotective effects of aliskiren on angiotensin receptor blocker and calcium channel blocker treatments for type 2 diabetic patients with albuminuria.	阿部雅紀 他	腎臓高血圧内分 泌内科
Diabetes Metab Res Rev	Complement-mediated chronic inflammation is associated with diabetic microvascular complication	藤田宣是 他	腎臓高血圧内分 泌内科
Biol Pharm Bull.	Development of pyrrole-imidazole polyamide targeting fc receptor common gamma chain for the treatment of immune-complex related renal disease.	梶原麻実子 他	腎臓高血圧内分 泌内科

Transl Res.	Association between SIRT2 gene polymorphism and height in healthy, elderly Japanese subjects	羽毛田公 他	腎臓高血圧内分泌内科
Cryobiology	Wound dressing material containing lyophilized allogeneic cultured cells.	Soejima Kazutaka	形成外科
Journal of Plastic Surgery and Hand Surgery	Endoscopic transmaxillary repair of orbital floor fracture.: A minimally invasive treatment.	Soejima Kazutaka	形成外科
JOURNAL OF RECONSTRUCTIVE MICROSURGERY	False-negative monitoring flap in free jejunal transfer.	Kashimura Tsutomu	形成外科
Acta Ophthalmol90:337-343,2012	Risk factors for progression of normal-tension glaucoma under β -blocker monotherapy.	Araie M, Shirato S, Yamazaki Y, Matsumoto C, Kitazawa Y, Ohashi Y, for the Nipradilol-Timolol Study Group	眼科
Clin Ophthalmol6:1539-1545, 2012	The effect of trabeculectomy on retrobulbar circulation and visual field progression in patients with primary open-angle glaucoma.	Yamazaki Y, Hayamizu F	眼科
Clin Ophthalmol6:1713-1716, 2012	Superior segmental optic hypoplasia accompanied by progressive normal-tension glaucoma.	Yamazaki Y, Hayamizu F	眼科
Clin Ophthalmol6:1855-1858,2012	Efficacy of pneumatic displacement with 40-degree downward gaze positioning for treatment of submacular hemorrhage: report of two cases.	Nakajima M, Aso H, Nakayasu K	眼科
Clin Ophthalmol 7: 29-33, 2013, Epub Dec 28, 2012	Iatrogenic retinal breaks during 20-gauge vitrectomy for proliferative diabetic retinopathy.	Kamura Y, Sato Y, Deguchi Y, Yagi F	眼科
Cornea31:S50-S56, 2012	Metalloproteinases in corneal diseases: degradation and processing.	Sakimoto T, Sawa M	眼科
あたらしい眼科29:679-686,2012	プリモニジン点眼液の原発開放隅角緑内障または高眼圧症を対象とした長期投与試験.	新家 眞,山崎芳夫,杉山和久,桑山泰明,谷原秀信	眼科
あたらしい眼科29:1281-1285, 2012	緑内障患者の日常生活困難度と両眼視野.	水木健二, 山崎芳夫, 早水扶公子	眼科
あたらしい眼科29:1303-1311,2012	プリモニジン点眼液の原発開放隅角緑内障または高眼圧症を対象とした検索的試験.	新家 眞,山崎芳夫,杉山和久,桑山泰明,谷原秀信	眼科
眼科54:1057-1064,2012	輪部病変に対してシクロスポリン点眼液0.1%が有効であった春季カタルの3例.	佐々木郁恵,及川亜希,稲田紀子,庄司 純,澤 充	眼科
眼科54:1065-1070,2012	動眼神経麻痺を合併した側頭動脈炎の1例.	眞鍋 歩,加島陽二,蓮見慎行,猪俣弘武,飯塚美紗都,杉谷雅彦	眼科
眼科54:1085-1090,2012	急激な転帰をとったクレブシエラ内因性眼内炎の1例.	山田 愛,立花敦子,岡島泰彦,崎元 丹,佐々木 淳,古作和寛,加島陽二,佐川知雅子,菊池浩史	眼科
眼科54:1207-1212,2012	コンタクトレンズ装用者に発症した真菌性角膜炎の2例.	朝生 浩,稲田紀子,杉本哲理,庄司 純,澤 充	眼科
日眼会誌116:485-493, 2012	アレルギー性結膜疾患診断における自覚症状,他覚所見および涙液総IgE検査キットの有用性の検討.	庄司 純,内尾英一,海老原伸行,大橋裕一,大野重昭,岡本茂樹,熊谷直樹,佐竹良之,南場研一,深川和己,福島敦樹,藤島 浩,高村悦子	眼科
日眼会誌116:494-502, 2012	アレルギー性結膜疾患特異的quality of life調査票の確立.	深川和己,藤島 浩,福島敦樹,角 環,岡本茂樹,庄司 純,佐竹良之,大野重昭,南場研一,北市伸義,海老原伸行,高橋 浩,熊谷直樹,内野裕一,内野美樹,村山公一,坂田実紀,内尾英一,高村悦子,大橋裕一,大久保公裕,佐藤敏彦	眼科

日眼会誌116:955-966, 2012	プリモニジン点眼液の原発開放隅角緑内障および高眼圧症を対象とした臨床第III相試験—チモロールとの比較試験またはプロスタグランジン関連薬併用下におけるプラセボとの比較試験.	新家 眞, 山崎芳夫, 杉山和久, 桑山泰明, 谷原秀信	眼科
日大医誌71:215-218, 2012	アレルギー性結膜疾患のバイオマーカーと涙液検査.	庄司 純	眼科
臨眼66:1035-1038,2012	緑内障配合剤点眼薬と患者アドヒアランス.	山田 愛, 菅谷哲史, 堀 眞輔, 佐々木 淳, 古作和寛, 山崎芳夫	眼科
日眼会誌117:117-125,2013	感染性角膜炎における涙液中ケモカインの検討	堀 眞輔, 庄司 純, 稲田 紀子, 澤 充	眼科
眼科55:85-91,2013	黄斑円孔を形成したvon Hippel病による網膜毛細血管腫の1例 硝子体液中血管内皮増殖因子濃度と網膜前膜の免疫組織化学的検討	中島 正巳, 能谷 聡子, 佐々木 郁恵, 中島 基宏, 石森 秋子	眼科
日大医学雑誌	術中2カ所の穿孔部位を認めた自然気胸の1例	四万村三恵	呼吸器外科
日大医学雑誌	開胸下に摘出した気管支異物の一例	西井竜彦	呼吸器外科
日大医学雑誌	カルボプラチン、パクリタキセル製剤のジェネリック品変更前後における有害事象の検討	古市基彦	呼吸器外科
Annals of Thoracic Surgery	Thymic and Pulmonary Mucosa-Associated Lymphoid Tissue Lymphomas	Muramatsu T	呼吸器外科
Surgery Today	Lobar emphysema with pneumothorax in an adult: report of a case	Muramatsu T	呼吸器外科
日大医学雑誌	脂肪肉腫との鑑別を要した胸壁脂肪腫の1例	石本真一郎	呼吸器外科
日大医学雑誌	進行肺癌との鑑別が困難であった肋骨好酸球形肉芽腫症を合併した肺クリプトコッカス症	竹下伸二	呼吸器外科
Cardiovasc Diabetol 17;11:53, 2012	Comparative effect of angiotensin II type I receptor blockers and calcium channel blockers on laboratory parameters in hypertensive patients with type 2 diabetes.	中山 智祥	臨床検査医学科
Hereditas 149(3):91-8., 2012	Haplotype-based case-control study of CYP4A11 gene and myocardial infarction.	中山 智祥	臨床検査医学科
Genet Test Mol Biomarkers 16(9):1019-1026, 2012	A haplotype of the smoothelin gene associated with myocardial infarction in Japanese women.	中山 智祥	臨床検査医学科
Pain Medicine 13(12):1627-1630, 2012	Incidence and prognosis of persistent pain induced by venipuncture for blood sampling: an observational study over a 5-year period.	中山 智祥	臨床検査医学科
Hereditas 149(5):153-162, 2012	The insulin-like growth factor-1 gene is associated with cerebral infarction in Japanese subjects.	中山 智祥	臨床検査医学科
Hereditas 149(5):178-185, 2012	Haplotype of smoothelin gene associated with essential hypertension.	中山 智祥	臨床検査医学科
Vascular Medicine Oct;17(5):317-325, 2012	Association of smoothelin (SM1N) gene with cerebral infarction in men: a haplotype-based case-control study.	中山 智祥	臨床検査医学科
日大医学雑誌 71(5):329-335, 2012	日本大学医学部附属板橋病院院内検査での習慣流産における染色体異常の実態調査	中山 智祥	臨床検査医学科
日本検査血液学会雑誌 14(1):18-26, 2012	急性骨髄性白血病(AML)M2における血球細胞形態所見と分子遺伝学的所見との関連性	中山 智祥	臨床検査医学科
Endocrine 42(3):700-707., 2012	Estrogen synthesis genes CYP19A1, HSD3B1 and HSD3B2 in hypertensive disorders of pregnancy.	中山 智祥	臨床検査医学科
Gynecological Endocrinology 42(3):700-707, 2012	Glucocorticoid synthesis related-genes: HSD11B1 and HSD11B2 in hypertensive disorders in pregnancy.	中山 智祥	臨床検査医学科
Transl Res 161(1):57-58, 2013	Association between SIRT2 gene polymorphism and height in healthy, elderly Japanese subjects.	中山 智祥	臨床検査医学科
医学検査. 62(3): 308-313, 2013	全自動糖分析装置GA09の基礎的検討(試薬と機器論文)。	中山 智祥	臨床検査医学科
臨床病理. 61(3): 242-246, 2013	標榜診療科としての臨床検査医学科における遺伝学的検査体制の構築。(技術論文)	中山 智祥	臨床検査医学科
Journal of innate immunity J Innate Immun 4(3):293-300, 2012	Functional mannose-binding lectin levels in patients with end-stage renal disease on maintenance hemodialysis.	里村 厚司	臨床検査医学科
日本臨床検査自動化学会会誌. 38(1): 83-86, 2013	全自動電気泳動装置エンパイザ2を用いたALPアイソザイム活性染色法とALP活性測定法との整合性に関する検討。(技術論文)	星野 忠	臨床検査医学科

Journal of Hepatology 57(2):330-336, 2012	Increased activity of serum mitochondrial isoenzyme of creatine kinase in hepatocellular carcinoma patients predominantly with recurrence	星野 忠	臨床検査医学科
Hypertens Res. 2012 Jun;35(6):567-73.	Millennium Genome Project for Hypertension. Hunting for genes for hypertension: the Millennium Genome Project for Hypertension.	相馬正義	総合科(内科)
痛風と核酸代謝. 2012;36(1):67	N型Ca拮抗薬シルニジピンが尿酸産生に及ぼす影響について.	相馬正義	総合科(内科)
Gastrointestinal Endoscopy	Long term gastric plasmacytoma follow-up after <i>Helicobacter pylori</i> eradication	Kimitoshi Kato	総合科(内科)
Case reports in Gastroenterology	Spontaneous regression of polyposis following abdominal colectomy and <i>Helicobacter pylori</i> eradication for Cronkhite-Canada syndrome	Kimitoshi Kato	総合科(内科)
臨床栄養	潰瘍性大腸炎,クローン病のプロバイオティクス,プレバイオティクス,シンバイオティクス療法	加藤公敏	総合科(内科)
日大医学会雑誌	透析医療における感染対策	矢内 充	総合科(内科)
Heart Vessels Feb 28. [Epub ahead of print], 2012	Relationship between status of plasma atrial natriuretic peptide and heart rate variability in human subjects.	笠巻祐二	総合科(内科)
Annals of Noninvasive Electrocardiology 16(2):156-164, 2011	Automated versus manual measurement of the QT interval and corrected QT interval.	笠巻祐二	総合科(内科)
呼吸と循環, 52: 315-320, 2004	Warm-up現象と心自律神経活動-連続運動負荷試験中のWavelet法を用いた心拍変動解析による検討	笠巻祐二	総合科(内科)
Canadian Journal of Cardiology, 14, 285-294, 1998	Potassium current and sodium pump involvement in the positive inotropy of cardiac muscle during hyperosmotic stress.	笠巻祐二	総合科(内科)
Canadian Journal of Physiology and Pharmacology, 77, 339-349, 1999	Sodium-pump potentials and currents in guinea-pig ventricular muscles and myocytes.	笠巻祐二	総合科(内科)
Cardiovascular Research, 34, 313-322, 1997	Protection by hypoxic preconditioning against hypoxia-reoxygenation injury in guinea-pig papillary muscles.	笠巻祐二	総合科(内科)
心電図11:258-267,1991.	心房受攻の非観血的予測指標について-電気生理学的検査と加算平均心電図法による対比検討-	笠巻祐二	総合科(内科)
心臓ペースング(日本心臓ペースング学会誌)6:40-47, 1990	アリジンの洞結節自動能および洞房伝導、房室伝導に対する電気生理学的作用	笠巻祐二	総合科(内科)
循環器科26:79-85,1989	信号処理方法の違いが心室遅延電位の検出に与える影響についての検討-multiphasic oscillation法およびvector magnitude法による比較検討-	笠巻祐二	総合科(内科)
Nihon University Journal Of Medicine 31:395-403, 1989	Methods for non-invasive detection of ventricular late potentials comparison between multiphasic oscillation method and vector magnitude method	笠巻祐二	総合科(内科)
Nihon University Journal Of Medicine 31:1-15, 1989	Effects of alinidine on sinus node function and sinoatrial conduction based on atrial epicardial maps and electrophysiological studies	笠巻祐二	総合科(内科)
Nihon University Journal of Medicine 33:431-443, 1991	Clinical significance of atrial signal-averaged electrocardiograms for predicting atrial vulnerability	笠巻祐二	総合科(内科)
治療 4月号	アルコールと睡眠障害	穂山真由美、金野倫子、内山真	精神神経科
医薬ジャーナル 4月号	睡眠の改善とうつ病の治療	内山真	精神神経科
病気と薬 パーフェクトBOOK 2012	睡眠障害 sleep disorder	内山真	精神神経科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 3月号	不眠と睡眠薬	内山真	精神神経科
Medical Tribune No.17	不眠症 生活習慣病やうつ病対策としても重要な意義	内山真	精神神経科
臨床精神医学 5月号	11.睡眠覚醒障害	内山真	精神神経科
武田薬報 2012 夏	「疲労と睡眠とビタミンについて考える」	内山真	精神神経科
武田薬報 2012 夏	「疲労と睡眠とビタミンについて考える」	安田和人、内山真、堀美智子	精神神経科
ドクターサロン 6月号	睡眠障害の薬物療法	内山真	精神神経科

睡眠薬プラクティカルガイド	I 睡眠薬(睡眠障害改善薬)の考え方	石郷岡純 編著、内山真・金野倫子	精神神経科
睡眠薬プラクティカルガイド	III 睡眠薬(睡眠障害改善薬)の使い方	石郷岡純 編著、金野倫子・内山真	精神神経科
睡眠薬プラクティカルガイド	IV 睡眠にまつわる誤解を解く	石郷岡純 編著、鈴木正泰・金野倫子	精神神経科
睡眠薬プラクティカルガイド	IV 睡眠にまつわる誤解を解く	石郷岡純 編著、久保英之・金野倫子	精神神経科
睡眠薬プラクティカルガイド	IV 睡眠にまつわる誤解を解く	石郷岡純 編著、菟山真由美・金野倫子	精神神経科
Japan Medicine MONTHLY 6月号	睡眠障害の対応と治療GL 10年ぶりに新版を発行	内山真	精神神経科
泌尿器外科 別冊	夜間頻尿を有する女性過活動膀胱患者における睡眠障害、夜間頻尿特異的QOLに対するソリフェナシンの効果	咲間隆洋、武信康弘、五十嵐智弘、五十嵐匠、佐藤克彦、持田淳一、岡田安弘、山中弥太郎、山口健哉、賀屋仁、内山真、高橋悟	精神神経科
日本臨床 7月号	睡眠薬療法の現状と今後の展望	内山真、金野倫子	精神神経科
脳とこころのプライマリケア 5	睡眠障害の診断	千葉茂 編、内山真 他	精神神経科
登山医学	標高1562mの徳沢において夜間睡眠中経皮的動脈血酸素飽和度(SpO2)は入山当日に低下し、2日目に軽度上昇するものの5日目でも平地レベルまで回復しない	中原健、原田智紀、清水翔一、平田衣里菜、相澤信、内山真、片山容一	精神神経科
睡眠医療 24号	慢性うつ病の断眠療法	鈴木正泰、内山真	精神神経科
分子精神医学	生活習慣および行動と睡眠障害	内山真、降旗隆二、金野倫子	精神神経科
ねむりと医療 7月号	『ねむりと医療』Vol.5 no.2 座談会 QOLと睡眠障害	内山真、佐藤誠、土井由利子、林田健一	精神神経科
Medical Tribune No.30	対談 高血圧と不眠症 —入眠障害を考慮した治療	内山真、荻尾七臣	精神神経科
Medical Tribune No.31	対談 高血圧と不眠症 —ガイドラインによる薬剤選択	内山真、荻尾七臣	精神神経科
総合教育技術 9月号	体内時計の仕組みを知り、夏休みに崩れた生活リズムを整える	内山真	精神神経科
精神科治療学 8月号	不眠の歴史	内山真	精神神経科
PHYSICIANS' THERAPY MANUAL 9月号	レストレスレッグス症候群の治療	内山真	精神神経科
調剤と情報 10月号	ガイドラインを薬局店頭で活かす 第16回	内山真	精神神経科
実験 治療 THE EXPERIMENT&THERAPY No.707	睡眠のメカニズム	内山真	精神神経科
日本精神科病院協会雑誌 第11号	睡眠障害の社会生活に及ぼす影響と経済損失	内山真	精神神経科
日本睡眠学会第37回定期学術集会 イブニングセミナー	睡眠の常識・非常識	内山真	精神神経科
Science of Kanpo Medicine 漢方医学1号	座談会 睡眠の質を高めるために	内山真、小曾根基裕、新野秀人、谷向和	精神神経科
今日の治療方針2013年版	過眠症(ナルコレプシーを含む)	内山真 他	精神神経科
内科 2月号	座談会 内科診療と睡眠専門医病棟間の連携のあり方	井上雄一、平田幸一、内山真、伊藤洋	精神神経科
2013 Winter TAKEDA Scientific Seminar PROGRAM	不眠症のおこるしくみとその治療	内山真 他	精神神経科
2013 Winter TAKEDA Scientific Seminar PROGRAM	生活習慣病と認知症の話題	内山真 他	精神神経科
月刊循環器 CIRCULATION 4月号	非ベンゾジアピン系睡眠薬の使い方と高血圧治療における不眠治療の重要性	鈴木貴浩、金野倫子、内山真	精神神経科
抗ヒスタミン薬 ~達人の処方箋Rx~	症状に起因する眠気と抗ヒスタミン薬に起因する眠気は区別できるのか?	平良直人、金野倫子、内山真	精神神経科
Psychiatry and Clinical Neurosciences	Relationships between exploratory eye movement dysfunction and clinical symptoms in schizophrenia	Suzuki M, Takahashi S, Matsushima E, Tsunoda M, Kurachi M, Okada T, Hayashi T, Ishii Y, Morita K, Maeda H, Katayama S, Otsuka T, Hirayasu Y, Sekine M, Okubo Y, Motoshita M, Ohta K, Uchiyama M, Kojima T	精神神経科
日大医学雑誌	東日本大震災に対する「東京都こころのケアチーム」の活動	高橋栄	精神神経科

精神神経学雑誌	統合失調症における探索眼球運動異常と臨床症状の関係	鈴木正泰, 高橋栄, 松島英介, 角田雅彦, 倉知正佳, 岡田俊, 林拓二, 石井洋平, 森田喜一郎, 前田久雄, 片山征爾, 大塚達以, 平安良雄, 関根瑞保, 大久保善朗, 本下真衣, 太田克也, 内山真, 小島卓也	精神神経科
Cell Metabolism 16, 825-32	Hepatic glucokinase modulates obesity predisposition by regulating BAT thermogenesis via neural signals.	Tsukita, S., Yamada, T., Uno, K., Takahashi, K., Kaneko, K., Ishigaki, Y., Imai, J., Hasegawa, Y., Sawada, S., Ishihara, H., Oka, Y., Katagiri, H.	糖尿病代謝内科
Endocrinology 153,5188-99	Vitamin D receptor activation induces peptide YY transcription in pancreatic islets.	Choi, M., Ozeki, J., Hashizume, M., Kato, S., Ishihara, H., Makishima, M.	糖尿病代謝内科
Metabolism 61, 1118-28.	Atf6 α -null mice are glucose intolerant due to pancreatic β -cell failure on a high-fat diet but partially resistant to diet-induced insulin resistance.	Usui, M., Yamaguchi, S., Tanji, Y., Tominaga, R., Ishigaki, Y., Fukumoto, M., Katagiri, H., Mori, K., Oka, Y., Ishihara, H.	糖尿病代謝内科
Acupuncture in Medicine.31:242-244, 2013	Bilateral tension pneumothorax related acupuncture.	Takashi Moriya	救命救急センター
救急医学 36:1233-1235, 2012	Modified Rankin Scale(脳卒中のアウトカムスケール)	守谷 俊	救命救急センター
J Neurotrauma 29: 313-321, 2012	Mild hyperthermia worsens the neuropathological damage associated with mild traumatic brain injury in rats.	Atsushi Sakurai	救命救急センター
Therapeutic Hypothermia and Temperature Management 2 (2): 67-72, 2012	Implication for Long-Term Hypothermia on Degradation of Interleukin-8 mRNA in Endothelial Cells Stimulated with Lipopolysaccharides.	Atsushi Sakurai, Kosaku Kinoshita	救命救急センター
消化と吸収 34(11):268-276、2012	敗血症性ショックを伴う下部消化管穿孔の治療戦略	小豆畑丈夫、丹正勝久	救命救急センター

計 188件

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 丹正 勝久
管理担当者氏名	庶務課長：榎並 修一 医事課長：小峰 勝 病歴課長：伊東 徳安 医学部庶務課長：小林 勝幸 医薬品安全管理責任者：吉田 善一 医療機器安全管理責任者：徳橋 泰明

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		庶務課 病歴課	病院日誌については、日別、年度別に保管。病歴資料については、カルテ、エックス線写真とも個人別、科別、年度別にファイルし、保存している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	医学部庶務課 板橋病院庶務課	
	高度の医療の提供の実績	病歴課 当該診療科	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病歴課 当該診療科	
	高度の医療の研修の実績	当該診療科	
	閲覧実績	病歴課 庶務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課 庶務課	
第規一則号第一に掲げる十の体制第一項保各号及び第九條の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室 庶務課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室 庶務課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室 庶務課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室 庶務課	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室 庶務課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染予防対策室 庶務課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室 庶務課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室 医事課 庶務課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染予防対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染予防対策室 庶務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染予防対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染予防対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部 庶務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学技士室 中央放射線部 庶務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学技士室 中央放射線部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学技士室 中央放射線部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学技士室 中央放射線部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務長 小林 好伸
閲覧担当者氏名	庶務課長：榎並 修一 会計課長：長田 剛 医事課長：小峰 勝 病歴課長：伊東 徳安 資材課長：石川 誠 医学部庶務課長：小林 勝幸
閲覧の求めに応じる場所	庶務課・会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	7 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 3 件
	地方公共団体	延 4 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	68.3%	算定期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		23,256人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		19,610人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		6,904人
	D：初診の患者の数		53,239人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>日本大学医学部附属板橋病院は患者の生命の尊厳と安全を確保し、常に高度で先進的な医療を提供する特定機能病院として、安全管理体制の強化を図るため、平成12年3月に医療事故防止マニュアルを作成し、以下の指針及び安全管理体制の確保のための委員会並びに医療事故発生時の対応方法をマニュアル化し整備した。</p> <p>① 医療法の改正に伴い安全管理に関する基本的な考え方等医療安全管理指針を改定（基本理念及び完全管理指針）（平成12年3月制定、平成24年7月改訂）</p> <p>② 安全管理体制組織運営</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療安全管理室運営規則（平成16年1月制定、平成24年7月改訂）・ リスクマネジャーに関する規則（平成16年1月制定）からセーフティマネジャーに関する規則と名称変更（平成18年9月改訂）また、諸規則に記載されている「リスクマネジャー」は「セーフティマネジャー」と読み替えて運用。・ 医療安全ワーキンググループ設置規約（平成18年4月制定、平成18年9月改訂） <p>③ 安全管理体制確保のための委員会</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療安全管理委員会規則（平成12年5月制定、平成24年7月改訂）・ 医療事故対策特別委員会規則（平成12年5月制定、平成17年11月改訂） <p>④ 医療事故発生時の対応方法</p> <ul style="list-style-type: none">・ インシデント・アクシデント・不具合事象（合併症）報告運用規則（平成12年5月制定、平成24年7月改訂）・ インシデント・アクシデントレポート不具合事象（合併症）報告フローチャート（平成12年5月制定、平成13年2月改定、平成13年4月改定、平成16年1月改定）・ 重大医療事故報告ルートフローチャート（平成12年8月制定、平成19年9月改訂） <p>⑤ 患者相談窓口運用要項（平成15年10月制定、平成16年1月改定）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 患者相談窓口フローチャート	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>「医療安全管理委員会」は医療安全管理室長を委員長として、専任医療安全管理者・診療部門・看護部門・中央部門（薬剤部、中央放射線部、臨床検査部）・事務部門から選出された委員（セーフティマネジャー）により構成されている。定例で月1回の会議を開催し、当院における医療に係る安全管理の基本を決定し、医療事故防止対策の検討及び医療安全の推進を図っている。また、年3回の医療安全講習会の企画・運営を行っている。</p> <p>下部組織として各部門の主任以上の者にセーフティマネジャーを任命し、各部署において医療安全対策を推進している。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>医療安全管理指針に基づき、安全管理体制と医療事故を未然に防ぐために以下の研修を実施した。</p> <p>① 平成24年6月4日（月）、5日（火）、13日（水）、14日（木） ※第1回医療安全講習会 「当院の医療安全状況と医療安全活動目標について」、 「災害医療について」他</p> <p>② 平成24年11月8日（木）、9日（金）、12日（月）、14日（水） ※第2回医療安全講習会 「最近の医療安全状況について」 「リストバンド使用に関する確認」他</p> <p>③ 平成25年3月7日（木）、8日（金）、13日（月）、14日（火） ※第3回医療安全講習会 「早滴防止に対する取組みについて」 「個人情報保護の留意点について」他</p>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (・ 無)
 - ・ インシデント・アクシデントレポートにより、速やかに報告を行う体制を整備している。
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ① インシデント・アクシデントレポートによる速やかな報告の推進。平成18年度からインシデントレポートシステムを導入しオンライン化を図った。
 - ② 提出されたインシデントレポート、外部のレポート、現場からの問題提起、インターネットやメディアアクセスなどから事例を収集・把握し、情報を得ている。また、上記情報を踏まえて、医療安全管理室は報告された内容を事例によっては当事者立会いによる現場での聞き取りや状況確認を行い、レベルの高い事故事例については平成18年度から設置した4部門の事例別ワーキンググループに付託し、詳細な原因究明分析を行い改善策の検討を行っている。
 - ③ 24時間いつでも提出可能にするために、医療安全管理室にポストを設置。
 - ④ 医療安全管理室室員の連携(情報交換)をとるために、週1回の連絡会を開催し、情報の共有化を図り、分析・予防対策等の検討を行っている。
 - ⑤ 専任医療安全管理者が病棟ラウンドを行い、報告内容の確認及びリスクマネージャーとの連携をとっている。
 - ⑥ 「ヒヤリ・ハット通信」「医療安全注意報」等の発行時には、回覧で読んだことを証明してもらうため、確認票も添付し、そこにサイン(押捺)させ、医療安全管理室で確認票を収集・管理している。
 - ⑦ 可及的速やかに検討が必要な事例が発生した場合、当該部署の医師や看護師ならびにそれに関連する部署の者も集めて「特別症例検討委員会」を開催し、今後再発防止策を検討・実施している。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 (2 名) ・ 無

⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 (5 名) ・ 無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 ・ 無

- ・ 所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (12) 名
- ・ 活動の主な内容：
 - ・ 医療安全管理室を設置し、医療安全管理委員会において検討された方針に基づき、組織横断的観点から安全管理対策を企画・立案・実施及び改善を図る。

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 ・ 無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無												
<ul style="list-style-type: none"> 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 基本理念，基本方針，専任者の配置，感染防止対策委員会の設置，職員の研修，感染症発生時の報告，感染症発生時の対策，閲覧について，連絡先，その他 													
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回												
<ul style="list-style-type: none"> 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 院内の感染症情報の共有，感染対策講習会の準備（企画）と開催，参加状況の把握感染対策マニュアルの改訂，医療安全ポケットマニュアル第7版の作成，標準予防策の手指衛生行動の評価：手洗いラウンド，事例検討会，新型インフルエンザ対策，ワクチン接種，安全器材のサンプル等について 													
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 9 回												
<ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 感染防止対策講習会 <table border="1" data-bbox="229 1021 1369 2018"> <tr> <td data-bbox="229 1021 560 1245"> 講習会 1 2011 年 5/23 (月)・6/10 (金) 17:30～ </td> <td data-bbox="560 1021 1369 1245"> 「事件は現場でおきている」（感染防止対策の基本） <ul style="list-style-type: none"> 職業感染防止対策：当院導入の器材の紹介，H22 年度エビネット日本語版集計報告 分離菌サーベイランス：H22 年度耐性菌検出状況，JANIS からの当院の分離率の報告 今年度の感染防止対策方針：耐性菌による病院感染ゼロを目指して，手指衛生の徹底，標準予防策の徹底，経路別予防対策の徹底 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="229 1245 560 1469"> 講習会 2 7/26 (火)・8/10 (水) 17:30～ </td> <td data-bbox="560 1245 1369 1469"> 「遠くバイ菌の輪接するところまで…まためぐりあいましょう…」（接触感染予防） <ul style="list-style-type: none"> 多剤耐性菌対策の対策について 抗菌薬の適性使用について 事例報告：私の病棟でのノロウイルス対策 吐物処理について </td> </tr> <tr> <td data-bbox="229 1469 560 1637"> 講習会 3 9/30 (金)・10/3 (月) 17:30～ </td> <td data-bbox="560 1469 1369 1637"> 「逃げるな！！ここで逃げたら逃げ癖がつくぞ」（空気感染予防） <ul style="list-style-type: none"> 結核症の早期診断のポイント QFT 検査 検体採取の正しい取り方：喀痰検査 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="229 1637 560 1839"> 講習会 4 11/10 (木)・12/6 (火) 17:30～ </td> <td data-bbox="560 1637 1369 1839"> 「あたしを愛しているのなら，近づくインフルエンザを一匹残らず蹴散らして！」 <ul style="list-style-type: none"> インフルエンザ対策 事例報告：私の病棟でのインフルエンザ対策 咳エチケット </td> </tr> <tr> <td data-bbox="229 1839 560 1951"> 講演会 5 2012 年 1/17 (火) 17:30～ </td> <td data-bbox="560 1839 1369 1951"> 院外講師による講演会 「(MRSA)マーサの幸せレシピ」 順天堂大学医学部 感染制御科/総合診療科 上原由紀先生 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="229 1951 560 2018"> 2/8・9・14・15 </td> <td data-bbox="560 1951 1369 2018"> DVD による講習会 結核 2 回，インフルエンザ対策 2 回，MRSA 2 回 </td> </tr> </table> 		講習会 1 2011 年 5/23 (月)・6/10 (金) 17:30～	「事件は現場でおきている」（感染防止対策の基本） <ul style="list-style-type: none"> 職業感染防止対策：当院導入の器材の紹介，H22 年度エビネット日本語版集計報告 分離菌サーベイランス：H22 年度耐性菌検出状況，JANIS からの当院の分離率の報告 今年度の感染防止対策方針：耐性菌による病院感染ゼロを目指して，手指衛生の徹底，標準予防策の徹底，経路別予防対策の徹底 	講習会 2 7/26 (火)・8/10 (水) 17:30～	「遠くバイ菌の輪接するところまで…まためぐりあいましょう…」（接触感染予防） <ul style="list-style-type: none"> 多剤耐性菌対策の対策について 抗菌薬の適性使用について 事例報告：私の病棟でのノロウイルス対策 吐物処理について 	講習会 3 9/30 (金)・10/3 (月) 17:30～	「逃げるな！！ここで逃げたら逃げ癖がつくぞ」（空気感染予防） <ul style="list-style-type: none"> 結核症の早期診断のポイント QFT 検査 検体採取の正しい取り方：喀痰検査 	講習会 4 11/10 (木)・12/6 (火) 17:30～	「あたしを愛しているのなら，近づくインフルエンザを一匹残らず蹴散らして！」 <ul style="list-style-type: none"> インフルエンザ対策 事例報告：私の病棟でのインフルエンザ対策 咳エチケット 	講演会 5 2012 年 1/17 (火) 17:30～	院外講師による講演会 「(MRSA)マーサの幸せレシピ」 順天堂大学医学部 感染制御科/総合診療科 上原由紀先生	2/8・9・14・15	DVD による講習会 結核 2 回，インフルエンザ対策 2 回，MRSA 2 回
講習会 1 2011 年 5/23 (月)・6/10 (金) 17:30～	「事件は現場でおきている」（感染防止対策の基本） <ul style="list-style-type: none"> 職業感染防止対策：当院導入の器材の紹介，H22 年度エビネット日本語版集計報告 分離菌サーベイランス：H22 年度耐性菌検出状況，JANIS からの当院の分離率の報告 今年度の感染防止対策方針：耐性菌による病院感染ゼロを目指して，手指衛生の徹底，標準予防策の徹底，経路別予防対策の徹底 												
講習会 2 7/26 (火)・8/10 (水) 17:30～	「遠くバイ菌の輪接するところまで…まためぐりあいましょう…」（接触感染予防） <ul style="list-style-type: none"> 多剤耐性菌対策の対策について 抗菌薬の適性使用について 事例報告：私の病棟でのノロウイルス対策 吐物処理について 												
講習会 3 9/30 (金)・10/3 (月) 17:30～	「逃げるな！！ここで逃げたら逃げ癖がつくぞ」（空気感染予防） <ul style="list-style-type: none"> 結核症の早期診断のポイント QFT 検査 検体採取の正しい取り方：喀痰検査 												
講習会 4 11/10 (木)・12/6 (火) 17:30～	「あたしを愛しているのなら，近づくインフルエンザを一匹残らず蹴散らして！」 <ul style="list-style-type: none"> インフルエンザ対策 事例報告：私の病棟でのインフルエンザ対策 咳エチケット 												
講演会 5 2012 年 1/17 (火) 17:30～	院外講師による講演会 「(MRSA)マーサの幸せレシピ」 順天堂大学医学部 感染制御科/総合診療科 上原由紀先生												
2/8・9・14・15	DVD による講習会 結核 2 回，インフルエンザ対策 2 回，MRSA 2 回												

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 感染症発生時、細菌検査室から主治医へ、と同時に隣室の感染予防対策室の専従の感染管理者への報告があり、現場へ直ちにラウンドし情報の共有・感染対策の強化について検討と確認を行っている。速やかな報告書の提出が可能となった。
 - ・ 標準予防策と経路別感染予防の遵守の状況を毎週ラウンドで検証している。
 - ・ 手指衛生月間（ポスター掲示）を設け、ICC手洗い評価ラウンドを年2回実施。
 - ・ ICLN活動として、自部署のスタッフのチェッカー（ブラックライト）を用いて手指衛生評価の実施。（チェックリストによる手指衛生手順・タイミングの評価）
 - ・ NICUスタッフの手指衛生行動の評価：手指消毒剤の使用量の測定
 - ・ 院内における手指消毒の払い出し量のサーベイランスの実施
 - ・ 順次、病棟トイレの改修工事（ゾーニングによる環境整備）
 - ・ CAUTIサーベイランス（神経内科，血液・膠原病内科，泌尿器科，脳神経外科の4部署），VAPサーベイランス実施（ICU・救命救急センターの2部署），BSIサーベイランス実施（3N）
 - ・ 蓄尿者の数を制限し汚物処理室の環境整備に努めた。
 - ・ 感染防止対策講習会の内容の充実，参加率向上への取り組み

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 与薬車の医薬品の保管管理について・ 温度管理が必要な製品の取扱いについて・ プライマリケアにおける慢性痛の新しい薬物療法について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)・ 業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 薬剤管理委員会で手順書の内容については検討修正し、医療安全管理委員会で承認を受け改訂版として運用している。・ 薬剤管理委員会の委員が月1~2回の割合で、病棟や外来を巡視し手順書に対応したチェックをし、必要とあれば改善点を指摘したりしている。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 手順書内へハイリスク薬について、追加項目を設けるとともに、ハイリスク薬一覧を作成。また、一覧は各診療科、外来、病棟に配布し、確認表の提出による周知を行った。	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 医療用ライナック（診療用高エネルギー発生装置）について放射線治療のリスクマネジメント、直線加速器の構造、保守管理・ 医療機器の有効性・安全性に関する事故・ 医療機器の使用法に関する事項・ 医療機器の保守点検に関する事項・ 医療機器の不具合が生じた場合の対応に関する事項・ 医療機器の使用に関して発生した場合の対応に関する事項・ 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 (☑・無)・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 保守点検計画作成をし、実施内容について安全管理者、医療機器管理責任者の評価、確認を得る・ 日常点検（始業前、修理後、週一回のQA・QC）の実施と記録・ 医療用ライナック、RALSに関しては年4回の定期点検をメーカーに依頼し実施している・ 定期点検は、各機器のマニュアルに沿った期間で行い、人工呼吸器、輸液ポンプ、シリポンポンプ等、一部の機器は臨床工学技士が行い、その他の機器はメーカーに依頼する。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ メーカーからの安全使用に関する情報通知を収集し、関係職員に回覧し、情報の共有化を図りその記録を保管・ 治療計画装置の安全使用を図るためにソフトノバージョンアップを保守契約に含め、常に最新のソフトを使用している・ 病棟巡視を行い、病棟で使用中の機器の確認・目視点検・動作確認を行っている。特に人工呼吸器に関しては、使用の際に臨床工学技士による装着時点検を行なっている。・ 医療安全管理室と連携を取り医療機器安全情報として随時、機器の取り扱いの注意点等をポスター及びチラシ等を発行し、各病棟に配布している。・ 看護師の希望対象者に対して、医療機器の取り扱い等の研修を毎月行なっている。（一回2名約3時）また、全看護師対象に、人工呼吸器、DC等のワンポイント講習を随時開催し、機器の安全使用に必要な知識を伝達している。	